志望大学合格のための質の高いコンテンツとそれを支える確かなメソッド

創立から40年以上の歴史を誇る誉田進学塾（千葉市緑区）は、難関高突破塾として地域に根ざして指導を続けてきた。2007年に東進衛星予備校に加盟し、大学合格実績も着々と伸ばしている。これまでのあゆみや指導方針のほか、2019年の「東進衛星予備校全国大会」で、生徒継続率で最優秀賞第一位を受賞した、東進衛星予備校の運営のポイントについて清水貫代表に話を聞いた。

本質を理解し応用できる力を養う

――誉田進学塾のこれまでのあゆみをお聞かせください。

中学の教員をしていた母は、父の転勤を機に退職したのですが、もう一度指導がしたいと1978年に誉田進学塾を立ち上げました。対象としていたのは、小中学生です。大学生だった私も、開塾まもない頃からアルバイトとして手伝い、卒業後はそのまま講師を務めました。しばらくは個人塾として運営していましたが、15年経った頃に2教室目を出し、正社員の採用を開始しました。社員のことを考えるようになると、それまでのいろいろなことが変わっていきました。

誉田進学塾グループ 代表　清水貫氏

なかでも大きな転機となったのが、2006年に4校舎目を出した時です。それまで私が社員を直接指導していたのですが、自分だけでは目が行き届かなくなり、社内研修を実施するようになったのです。

――どういう研修をおこなったのですか？

子供を教える際には、自分で考えられる子を育てたいと思ってきました。例えば数学の公式を暗記するのではなく、公式を発見できるような力を育てたいと…そういうポリシーがありましたので、社員に対してもやり方や手順を指導するのではなく、考え方や判断の基準を伝える研修を実施してきました。

現在、新入社員にはデビューするまでの3カ月間みっちり基礎研修をおこなっているほか、高校受験の担当社員には週2回研修をおこなうなど、引き続き研修には力を入れています。

コンテンツの質の高さと勉強に向かわせる優れたメソッド

――現在では大学受験にも対応されていますよね。

はい。長らく高校生を見てこなかったのですが、大学受験まで一貫して指導したいという思いがようやく実現しました。それを後押ししてくれたのが、東進衛星予備校です。実際に加盟してみて感じたのは、コンテンツがかなり作り込まれているということ。1年稼働した結果、授業に対するクレームは一切ありませんでした。課題として感じたのは、その子のレベルに合ったクラスに振り分けられなかったことぐらいです。教務スタッフの力量が

↘ 全く読まないとした人が特に増えたのは20代で、13年調査に比べ25.1ポイント増の52.3%と倍増した。30代は54.4%と半数を超えた。23.3%だった60代も、44.1%まで増えた。

いかに大事かを痛感しました。学生アルバイトは担任助手として採用していて、先輩としての役割を任せています。

――東進衛星予備校に加盟されて、ほかにも感じたことはありますか。

優れているのはコンテンツだけではない、ということですね。子供をいかに勉強に向かわせるかについてもよく研究されていて、メソッドが確立されています。当塾も小中学生を指導する際には、〝やり続けさせる〟ことを念頭に置いてきましたので、共感できました。結局どんなに中身がよくても、子供が勉強しなければ成績は伸びません。極論ですが教え方が多少下手でも、子供のやる気さえ引き出せれば伸びるんです。授業の中身はもちろん、それを支えるシステムが整っている点に驚きました。

あとは志望校対策講座や、分野別講座にも目を見張るものがあります。大手ならではのリソースを使って過去問を徹底的に洗い出していますので、効率的に学習できるようになっています。当塾も中学・高校の志望校対策で勝負してきましたが、大学受験の「質」の部分を担ってもらえるのは本当に有り難いです。勉強に向かわせる手法、授業の質や志望校対策という両輪が、非常にうまく機能していると思います。

東進のIT授業で学ぶ生徒たち

充実のフォロー体制で強みを伸ばせる

――本部の支援はいかがですか？

現場の声を汲み上げる体制が整っていて、スピード感をもって改善してくれるのが嬉しいですね。

あとはしっかりフォローしてくれますので、できる限りそれを忠実に守っていますが、大学受験の変化に合わせて求められているスピードも速く、全てを100％完璧にするのは難しいです。

その中でも、例えば「センター試験の過去問10年分を夏休み中に解こう」という本部の号令には賛同し、実践しています。また退塾率や継続率も重要指標と捉えているのですが、おかげさまで2019年の「東進衛星予備校全国大会」では、継続率部門で全国の最優秀賞第1位を獲得することができました。生徒の日頃の様子をよく観察し、ちょっとした変化も見逃さないことなどが、保護者から評価されているのだと思います。

誉田進学塾ismおゆみ野教室

――東進衛星予備校の校舎はどのように出店しているのでしょう。

現在6校舎運営している東進衛星予備校も、3校舎目の開校からは小中部門とは別の入り口を設け、併設型としました。また、それまでは小中部門があったエリアにのみ開校していましたが、先に高校部を出し、あとから小中部門をつける実証をおこなってみたほか、試験的に小中部門がないエリアへ単独で出店しています。どういうフィードバックが得られるか、とても楽しみです。

――最後に今後の展望をお聞かせください。

社員やスタッフが、創意工夫しながら力を発揮できる場を提供すべきだと感じています。自ら考えて動けなければ、多様性は生み出せないですからね。ゴールは見えているつもりですが、そこへたどり着くのが難しい。いかにゴールに到着するかが、これからの大きなテーマです。

◆国立青少年教育振興機構は12月23日、全国の20～60代の男女5千人を対象に、読書習慣に関して調査した結果を発表した。全年代を合わせ、1カ月に本を全く読まないとした人は49.8％に上った。2013年にまとめた同様の調査の28.1％から、大幅に増えた。↗